

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2670700349 | | |
| 法人名 | メデカジャパン | | |
| 事業所名 | 嵯峨野ケアセンターそよ風 2F | | |
| 所在地 | 京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年10月15日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年1月26日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670700349&SCD=320 |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター | | |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成22年11月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人がゆったりとした時間や空間で職員とともに笑い楽しみ、また悲しみも一緒に感じられるように毎日を過ごして頂ける支援をしています。また、季節感が感じられるよう、食事や入浴、掲示板や居室などの写真や飾りを取り入れたり、イベントを企画したりして、そよ風で楽しく生活を送って頂けることにも力を入れて支援しています。センターの前で畑をお借りし、その季節に採れる新鮮な野菜を味わって頂いたり、緑いっぱいの環境を存分に感じて頂けるようにも努めています。これからも利用者様のご自分のペースで生活、毎日を過ごして頂けるよう、ご希望や要望を聞いたり、ご希望を聞きだせるような声かけの工夫など、職員間で情報共有をし協力しあって、ゆったりと自由な時間を過ごして頂くようにしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所で作った理念を館内に貼り出し、毎朝朝礼時に読み合わせする事で、常に全職員理解・意識し、日々の業務にあたっている | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 職員が地域の自治役員を担当したり地域の催しごとのお手伝いをしたり、事業所自体が地域の一員として交流はあるものの、利用者や地域とが関わりを持つ場面はイベント等限られている | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 活かそうという意識を持ち、具体的案を話し合っている。10月末には、近隣中学で認知症についての研修のお手伝いもすることになっている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を行い、よりよい話し合いができてきている。さらに参加者と信頼関係を深め、意見の出やすい会議を目指し、サービス向上に努めたい。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 連携をとりながら、よりよい協力関係を保っている | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的に身体拘束会議を行い、全職員に正しい知識・理解を徹底している。また、安全面を十分考慮しながら身体拘束をしないケアを常に職員間で話し合っている | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 全職員が虐待防止の徹底の意識を持つのは当然とした上で、見過ごされないようお互い注意を払っている | | |

嵯峨野ケアセンターそよ風 (2F)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者やユニットリーダーは制度の理解をもっており、必要に応じて話し合いを行っているが、全職員とはなっていない | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 管理者が情報の統括をし、十分な説明・話し合いを行い対応している | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会を開き意見を聞く場面を設けたり、日々の関わりでよりよい意見交換ができる関係を築く努力をし、いただいた意見を職員間で共有し、業務の改善に努めている | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に一回の全体会議で話し合う場を設けたり、日々の業務の少しの時間でも意見・提案を聞く場面を設け、運営に反映させている | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 各職員の勤務態度は常に把握・理解し、また把握・理解するよう情報収集など努力している。それをふまえた環境の整備の向上の努力もしている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 積極的に研修の場を設けたり、外部の研修参加の奨励をするなど、努力しているが、職員の自主性・やる気が伴わない事も見られる | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 交流の場を設けるには至らないが、機会がある毎によりよい交流・意見交換ができていく | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初期の信頼関係構築を大変重要と全職員が認識し、安心していただけるよう十分なコミュニケーション・寄り添いを行っている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用者様同様、信頼関係構築に最善を尽くし、家族様のニーズに応える努力を行っている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | カンファレンスを通し、支援の見極めを全職員で十分話し合い、必要とされている対応を行っている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人主体の生活、それのお手伝いをさせていただくという意識を常に持ち、また職員間でも常に意識の確認を行いながら、利用者様との関係をきずいている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員が、一方の立場に立たない意識を十分に持ち、家族様にもそのような思いをさせないよう機会がある毎に話し合いをしている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者様・家族様の要望を十分把握し、来訪者は自由に面会していただいたり、可能な限り関係性が途切れない努力はしている | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士よりよい関係が築けるよう、情報の共有、場面の設定、時には職員が潤滑油になり楽しく過ごせる努力を行っている | | |

嵯峨野ケアセンターそよ風 (2F)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用者様・家族様の要望を十分把握し、必要に応じて手紙での交流や相談・フォローを行っている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 全職員が利用者様の思いを汲み取る努力を怠ることなく意識を高く持ち、接している | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 情報シートを作成し、ステーション内で保管。生活歴や今までの暮らし方など全職員が把握できるようにしている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 全職員が日々の業務の中で利用者様の状態の変化に敏感に観察し、対応する意識を高く持っている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンス会議を開き、意見・情報の収集を徹底しニーズに合ったケアプラン作成に努めている | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護経過記録を個別に記入している、またケアプランのモニタリングチェックを毎日行い、日々の気づきを書き留め、集めた情報を共有・意見交換してケアの実践につなげている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 事業所でできる範囲内の柔軟な考え方をもち、利用者様本位の生活が送れるよう臨機応変な対応を心がけている | | |

嵯峨野ヶアセンターそよ風 (2F)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源を把握しながらも、利用者様が豊かな暮らしをすごされるよう活かしていきれていない部分はある | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者様・家族様の要望にお答えし、施設の協力医療機関の他、いままでのかかりつけ医を継続して受けることも出来るようにしている | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 定期的な往診時に情報・気づきを伝え、連携とっている。必要であれば、受診・その他対応に努めている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 日頃から関係者との連携は蜜にとれている。入院・手術などの緊急な対応に対しても利用者様・家族様が安心できるよう話し合い・連携をとり、協議している | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族様が不安に思われている事が多い事柄でもあり、終末期の方針については機会がある毎に説明・意見交換をさせていただき、事業所の方針・家族様の意見のよりよい話し合いをしている | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 全体会議の中でシュミレーション研修を行ったり、緊急時マニュアルを作成し、ステーションの見える場所に掲示し、どんな時でも冷静な対応ができるよう努めている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 全職員が対応できるよう定期的に避難訓練を行っている。地域の方と災害時の対応について話し合う機会はあるものの、もっと具体的に話し、情報共有していく必要はある | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 全職員が徹底的に意識を持ち、努力している。常に職員間でも注意し合いながら、利用者様と接している | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様本人から思いを表していただくのはもちろんの上、非言語コミュニケーションから自己決定できるようサポートしたり、利用者様の思いを受け止める努力を行っている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様の生活を主体としてそれのお手伝いをさせて頂いているという意識を高く持ち、接しているが、どうしても職員本位で接してしまう場面もあり、今後の課題である | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 家族様に馴染みの服を用意していただいたり、利用者様の要望をお聞きし、対応するように努力している | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様の残存能力を活かし、できる事はやっていただき、お出来にならない事はさせていただく事を実践している。そのために職員は常に利用者様の能力の見極めの観察に努めている | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日、食事量・水分量を記録し一人一人の状態の変化にすぐ対応できるよう努めている。日々気付いた事を職員間で情報共有する事も重要視し行っている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 利用者様に応じた口腔ケアを行っている。毎食後ではないが、口腔内の清潔保持もケアの重要な役割の一つとして全職員が自覚し、就寝前は必ず口腔ケアをしている | | |

嵯峨野ケアセンターそよ風 (2F)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 用具やオムツの種類が利用者様にとって適正であるか、もっとより本人らしい排泄方法はないか常に考えながらケアを行っている。また、全職員がそのような意識を持って接するよう指導・意見交換をさらに重ねる必要がある | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 運動促進や、食事内容の検討、便秘薬のコントロールなど利用者様の体質や状態に合わせて色々な角度からの便秘対策に取り組んでいる | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 可能な限り、利用者様の要望にお応えし、楽しい時間の提供ができるよう努力しているものの、人員体制、設備体制などの抜本的な改善がないと実現できない要望が多いのが課題である | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 起床時間・消灯時間などは設けず、利用者様のライフスタイルに合わせたケアを心がけている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服用されている薬の説明書をステーション内にファイリングし、いつでもすぐ確認できるようにしている。また、服薬事故が起きないように全職員が意識を高く持ち、危機感を持って業務に携わっている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 全職員が、常に利用者様がどのように過ごしたらより楽しい生活が送れるか、日々考え直し、アイデアを出し合い、QOLの向上に努めている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 可能な限り、その日の希望に添って外出のサポートを行っている。人間的・時間的・距離的・利用者様のADLなどの要因で実現不可能な場面もあるが、代替案を常に考え利用者様の希望実現に近づける努力を続けている | | |

嵯峨野ケアセンターそよ風 (2F)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を持つことの大切さを十分理解している上で、金銭トラブル回避の為職員が管理しているが、利用者様の状態やその場の状況に合わせてお金を扱う機会を作る努力をしている | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者様・家族様の希望、要望を十分把握し、支援を行っている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 不快の無いような、空調管理、照明調節、片付けそうじをして環境の整備は常に注意を払っている。リビングや手洗い場には季節の絵や花を飾り、季節感を楽しんでいただけるよう努力している | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 一人で過ごしたい時は各個室部屋で自由に過ごされたり、リビングの二人がけソファで気の合った利用者様同士座りおしゃべりを楽しんだり、またリビングの座席も個々がより気持ちよく過ごせるよう配置を工夫したり、要望をお聞きしたり、職員間で意見を出し合いながら、決めている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者様が使い慣れた家具を持ち込んでいただいたり、これまでの生活スタイルをできるだけ変えない努力をしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全かつ自立した生活の実現の難しさを職員個々に感じながらも、今、その時できる自立した本人らしい生活環境を提供する事を常に考え、情報共有し、日々業務に携わっている | | |